

<給食運営委員会 資料 残菜調査>

令和2年度

	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
☆1年			4.9	8.1	5.7	3.1	3	1.5	1.9	1.2	0.3
○2年			9.9	14.2	11.6	8.8	11.4	11.4	12	10.9	8.8
◎3年			5.2	4.7	4.4	1.6	2	2.2	3.5	3.8	3.1
全体			6.7	9.0	7.2	4.5	5.5	5.0	5.8	5.3	4.1

・6月は、コロナ対策で、個包装のメニューが多く、配りやすかった。また1人分の量が明確で、完食している生徒が多かった。
 ・7月のメニューはほぼ通常に戻った。休校や部活の制限などによる運動不足、生活リズムの乱れ、暑さなどからいつもより食欲がない様子が見られた。

・9月ごろから、毎日のランチタイムズに、残菜率が0%だったクラスを記すようになった。
 ・9月下旬から1年生の残菜が低くなり、特に1年3組はほぼ毎日完食が続くようになった。

・1月～2月の受験シーズンでは、3年生の休みが多い日があり、3年生の残菜が少し増加した。しかし、もともとよく食べる学年で、給食に対する意識も高く、受験が落ち着くとともに、以前のように、しっかりと食べる事ができた。
 ・3月に2年生は、家庭科の授業で、給食について学んだあと、残菜が少なくなった。

1学期の平均	2学期の平均	3学期の平均	6月～3月の平均
6.5	3.3	1.1	3.3
12.1	10.8	10.6	11.0
5.0	2.6	3.5	3.4
7.8	5.6	5.1	5.9

・令和2年度は、令和元年度の全体の年間の残菜率と比べて、8%から5.9%へと、2.1%減少した。令和2年度入学の1年生の残菜率が低かったことが、残菜率の減少に大きくつながったと考えられる。
 ・保健給食委員会や教員の声掛けや、教員によるおかわり分の配膳時の声掛けなどにより、クラス全体の給食への意識の高まりが見られた。
 ・来年度も残菜量を調査し、喫食量の把握、献立作成、食品ロスの減少、食育、給食指導などに活用していく。喫食量については個人差を考慮する。

令和元年度

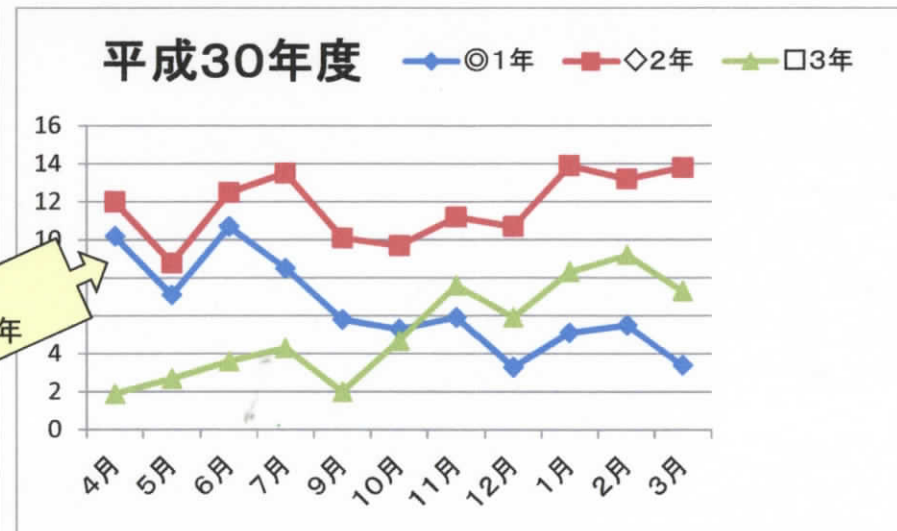
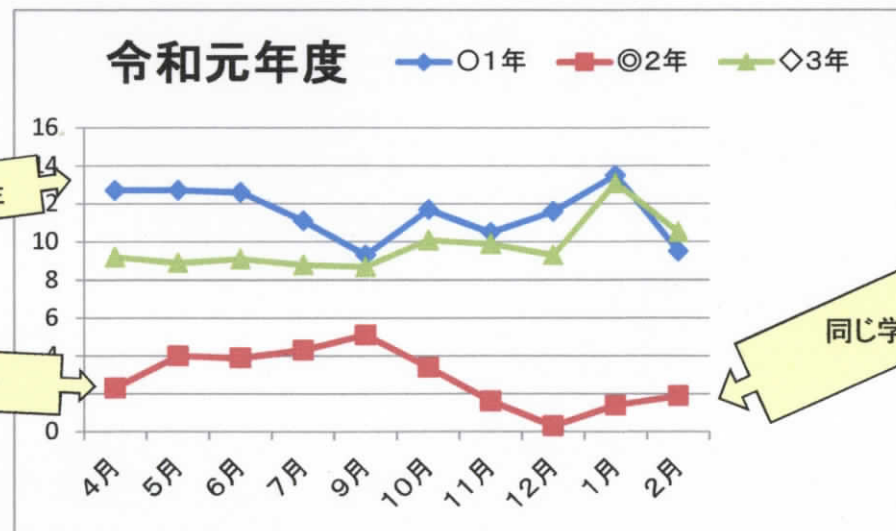
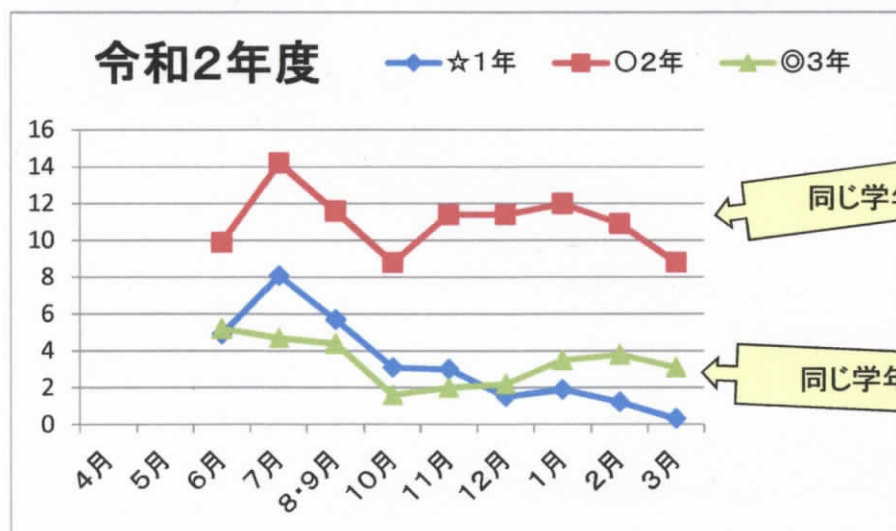
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
○1年	12.7	12.7	12.6	11.1	9.3	11.7	10.5	11.6	13.5	9.5	
◎2年	2.3	4	3.9	4.3	5.1	3.4	1.6	0.3	1.4	1.9	
◇3年	9.2	8.9	9.1	8.8	8.7	10.1	9.9	9.3	13.1	10.5	
全体	8.1	8.5	8.5	8.1	7.7	8.4	7.3	7.1	9.3	7.3	

1学期の平均	2学期の平均	3学期の平均	4月～2月の平均
12.3	10.8	11.5	11.5
3.6	2.6	1.7	2.8
9.0	9.5	11.8	9.8
8.3	7.6	8.3	8.0

平成30年度

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◎1年	10.2	7.1	10.7	8.5	5.8	5.3	5.9	3.3	5.1	5.5	3.4
◇2年	12	8.8	12.5	13.5	10.1	9.7	11.2	10.7	13.9	13.2	13.8
□3年	1.9	2.7	3.6	4.3	2	4.7	7.6	5.9	8.3	9.2	7.3
全体	8.0	6.2	8.9	8.8	6.0	6.6	8.2	6.6	9.1	9.3	8.2

1学期の平均	2学期の平均	3学期の平均	4月～3月の平均
9.1	5.1	4.7	6.4
11.7	10.4	13.6	11.8
3.1	5.1	8.3	5.2
8.0	6.9	8.9	7.8



残菜率が低い回数	1年1組	1年2組	1年3組	2年1組	2年2組	2年3組	3年1組	3年2組
0%	23	55	113	0	0	0	96	24
<1%	15	16	9	0	2	0	11	8
≤5%	58	56	21	3	29	14	35	55
合計	96	127	143	3	31	14	142	87